

# 臨時営農技術情報

令和2年 9月 日

十勝農業改良普及センター本所 (TEL 67-2291)  
<http://www.tokachi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index3.htm>

## 秋まき小麦「きたほなみ」 本年のは種作業について (晩まき・連作への対応)

断続的な降雨により、豆類・馬鈴しょの収穫作業が遅れ気味となっていることから、本年の秋まき小麦のは種作業は例年通り進めることが難しくなることが予想されます。

やむを得ず、秋まき小麦の晩まきや連作をしなくてはならない場合、次の目安と注意点を参考に作業しましょう。

### 1 晩まきの場合のは種晩限とは種量

#### (1) は種晩限は9月29日

過去10ヶ年の気象データから、は種適期(=越冬前に適正な生育量である主茎葉数を5葉程度確保できる日)は9月21~22日ですが、**は種晩限**(=越冬可能な最低限の主茎葉数4枚程度を確保できる日)は気温が平年並に推移した場合、**9月29日**と推測されます(表1)。それまでには種が終了するよう、作業スケジュールを調整して下さい。

#### (2) 晩まきのは種量は、255粒/m<sup>2</sup>

適期まきのは種量は160~180粒/m<sup>2</sup>ですが、は種時期が晩限に近くなった場合は255粒/m<sup>2</sup>を上限に、は種量を増やしましょう(表1)。

また、**種子生産地ごとに千粒重が違いますので、必ず確認**して下さい。

表1 「きたほなみ」のは種期とは種量

〈アメダス観測点〉	は種適期【適日】	晩まき
芽室	9/19←【9/22】→9/25	~9/29 4葉確保の晩限
帯広泉	9/18←【9/21】→9/24	
更別	9/18←【9/21】→9/24	
は種粒数(粒/m <sup>2</sup> )	160~180	180~255
は種量(kg/10a)	6.1~6.8	6.8~9.7

注1：は種量は、千粒重38g、発芽率90%として算出

注2：千粒重が異なる場合には、以下の計算をします。

$$\text{は種量 (kg/10a=g/m}^2) = \text{は種粒数(粒/m}^2) \times \text{千粒重(g)} \div 1000$$

### 2 連作となる場合の注意点

#### (1) 耕起・整地による麦稈のすき込み

前作の麦稈がほ場表面付近に露出している場合、雪腐病の感染源となるおそれがあります。耕起を行い、麦稈を地下にすき込むよう心がけましょう。

#### (2) 除草剤による秋処理の実施(表2)

イネ科雑草を抑制できるのはこの時期だけです。**特に連作の場合はイネ科雑草の増加が懸念されます**。耕起前に多年生雑草の多い場合は、は種後の雑草処理が困難となるのでグリホサート系の除草剤での耕起前処理を行いましょう。

また出芽後の散布は効果が劣る場合があるので、必ずは種後に土壌処理を実施しましょう。

表2 秋まき小麦の除草剤使用例

除草剤名	処理時期	使用量(ml/10a)	使用回数	対象雑草
ガレース乳剤	は種後～出芽前	200	1回	1年生雑草
	小麦出芽後～出芽揃期	150～250		
	小麦の1～3葉期	100～150		
ボクサー	は種後～小麦2葉期まで	400～500	1回	
ガルシア	は種後出芽前	150～250	1回	
フロアブル	小麦の出芽直前～小麦3葉期	100～200		

### (3) 雪腐病防除と翌年の融雪促進

連作は雪腐病のリスクが高まるため、防除と翌年の融雪促進を確実に実施しましょう。

### (4) 連作するしかないなら、早目の決断も

連作を推奨するものではありませんが、「もう連作するしかない」という状況であれば早目に決断してほ場の準備を行い、可能な限り適期に近い時期には種し、越冬前の生育量を確保することも重要です。

## 3 その他注意点～排水対策

排水性が劣るほ場は、心土破碎により排水良好なほ場をつくるよう、心がけましょう

## 4 農作業安全 ～作業の遅れを取り戻そうとする“あせり”が危険～

度重なる悪天候の影響で農作業が遅れています。今後、豆類・馬鈴しょの収穫と秋まき小麦の畑づくり・は種など作業が重なると、疲労の蓄積が心配されます。一層の事故防止に努めて下さい。